

はじめに

聖書は全人類に向けた神のメッセージです。聖書の中心は救い主をつかわすという神の約束です。聖書は膨大な内容を含んでいる本なので、読んで理解することは難しいかもしれません。単なる道徳や規律などを教えている本だと考える人もいますが、そうではありません。

旧約時代（イエス・キリストの誕生前）、神はモーセと預言者たちを通して、旧約聖書を書きました。新約時代（神が私たちの救い主として神の子イエス・キリストをつかわした後）、神はイエスの使徒たちを通して新約聖書を書きました。

聖書が道徳についての神の見解を教えているのは事実ですが、神は救い主を信じているすべての人々に、聖書を通して多くの祝福を約束しています。あなたがこの冊子を読み、これらの約束について学び、その約束にある慰めと希望を見出されることを心から祈っています。

***用語解説について**

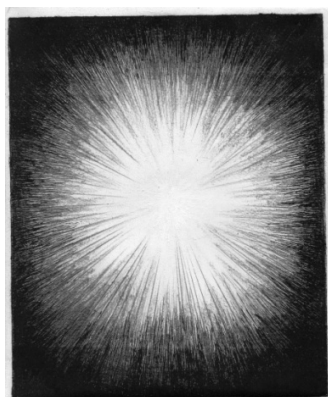
P6. 7. 8 の*下線をひいた言葉については、本文の最後に用語解説があります。

すべての創造の初め

この世界は、一体どのようにして始まったのでしょうか。神は聖書の中で、天地創造のようすを私たちに伝えています。

聖書によると、神は何もない所から、つまり「無」から宇宙のあらゆるものを造りました。この世界が始まる以前は、星、地球、地上の山々や草木などは存在しませんでした。そこは神のみが存在する世界だったのです。全能である神は、言葉を発しただけで天と地とその中のすべてのものを造りました。

神はたった6日間ですべてを創造しました。神が「光よ。あれ」と言うと光ができました。聖書には次のように書かれています。「夕があり朝があった。第一日」。神は6日間それぞれの日に、「～よ、あれ」と言いました。それにより、光、空、地、川、植物、太陽、月、星、魚、鳥、動物などが存在するようになりました。神は明確な秩序をもってすべてのものを造りました。



6 日目に、神はすべての生き物の中で最もすぐれたものを特別に造りました。それが男と女でした。神は最初の男であるアダムを地のちりから形造り、最初の女であるエバを、アダムのあばら骨の一つから造ったのです。

人間は神のかたちに似せて特別に造られましたが、それは見える姿が神と同じだったという意味ではありません。神は霊であり、人間のような肉体を持たないからです。神のかたちに似せて造られたという意味は、最初に創造された時、人間には罪がなく、神の意志（こころ）を完全に理解し、神のような完全な聖（きよ）さを持っていたということです。創造の業（わざ）を終えた時、神は「すべてのものは、非常によかった」と言いました。

現代の私たちは、神がこのようにして造った美しい世界を破壊しています。例えば工場の排気で空気を汚し、廃水で海や川を汚しています。むやみに動物を殺したり、不要な森林伐採をしたりしています。私たちは自分の体の管理にも無責任になり、多くの人が不摂生な生活をしています。麻薬や薬物で自分の体を破壊している人もいます。もはや人間は神の創造物である地球の「良い管理者」ではありません。いまや地球は創造時の美しさを失っています。

私たちは自分の体やこの世界を正しくもちいて、神に感謝すべきです。神は人間を特別な存在として造りました。神を信じ、神に感謝し祈るという信仰は、人間だけに与えられたものです。

信仰は神からの贈り物です。神の子イエス・キリストを信じるという信仰を通して、私たちはいつの日か神のもとに帰るのです。そのとき、私たちは「神に感謝せよ。神はまことにいつくしみ深い」と賛美の声をあげることでしょう。

救い主の約束

神が男と女を造り結婚を定めた時、夫のアダム（男）には家庭の指導者、妻のエバ（女）には夫の助け手としての役割を与えました。アダムは悪魔(サタン)に誘惑されたエバにそそのかされ、罪を犯してしまいました。この罪の恐ろしい結果が後世のすべての人間に受け継がれることになりました。

この問題について詳しく見てみましょう。神は天地万物を造ったのち、私たちの最初の両親であるアダムとエバを美しい園に住ませました。そこはエデンの園として知られています。そこには美味しそうな実をつける木々が生えていました。園の中には川が流れ、人や動物や植物をうるおしていました。アダムとエバは幸せで、労働さえ苦労ではなく喜びでした。

神はアダムとエバに一つの命令を与えました。それは「エデンの園の中央にある善悪の知識の木の実を取って食べてはならない。それを食べるとあなたは必ず死ぬ」というものでした。

そこに悪魔が現れ、エバが神の言葉を疑うように嘘をつき「あなたがたは、その木から実を取って食べても決して死にません。

それどころか、善悪の知識の木の実を食べた人は神のようになります」と誘惑しました。エバは誘惑に負けてその実を食べてしまい、アダムにもその実を与えました。2人はこの簡単な命令さえ守れず、神の言葉にそむく罪を犯してしまいました。その瞬間に彼らの心は神から離れ、肉体的な死をさけられなくなり、魂も永遠に死ぬ(地獄に行く)ことになったのです。



アダムとエバの罪の結果はすべての人間に受け継がれ、私たちも生まれながらに罪深い者となりました。アダムとエバから受け継がれた、生まれながらの罪を「原罪(げんざい)」と言います。それに対して、原罪が引き起こす悪い思い、悪い言葉、悪いおこないを「実罪」と言います。

罪の結果として、神はアダムとエバをエデンの園から追放しました。アダムは食を得るために一生苦しんで労働しなければならなくなりました。神は土地にいばらとあざみを生えさせ、「あなたは、野の草を食べなければならない。あなたは、額に汗を流して糧を得、ついにあなたは土に帰る。あなたはそこから取られたのだから」と言いました。人が苦勞して糧を得なければならない

ことと、必ず死ななければならないという罪の結果は、今日でも同じです。

神は、罪人（つみびと）となったアダムとエバをあわれみ、祝福に満ちた約束を与えました。その神の約束とは、救い主（人間の罪を取り除く方）をこの世につかわすことです。

神は救い主が悪魔を滅ぼすことを宣言し、蛇の姿で現れた悪魔に「彼(救い主)は、おまえ(悪魔)の頭を踏み砕く」と言いました。遠い昔に約束されたこの救い主こそ、神の子イエス・キリストです。イエス・キリストはすべての人の罪を身代わりに負って、神の怒りを受け、地獄の苦しみを味わい、十字架上で死に3日目によみがえったことにより、罪の結果である地獄での永遠の罰と死の恐怖と悪魔の力から全人類を救い出しました。

私たちにとって、この救い主は必要なのでしょうか。神は、聖書の中で「私たちがこの世に生を受けた時、すでに罪深い状態にある。私たちは最初の両親アダムとエバから罪深い性質を受け継いでいる」と言っています。それについてあなたはどのように思いますか。聖書が定める罪とは嘘をついたり、盗んだり、他人をうらんだり、のろったり、傷つけたり、悪い欲望を抱いたり、神よりも他のことを大切にしたり、*偶像礼拝をすることをさしています。このような罪を私たちは毎日犯していませんか。その罪の結果として罰を受け、死ぬということは、つらく悲しいことです。

罪をゆるされないままの死は、地獄での永遠の苦しみを意味し

ます。しかし聖書には「神が私たちの罪をゆるすために、救い主をこの世につかわす」という約束が書かれています。その救い主とその約束についてさらに見ていきましょう。

約束の実現

神がアダムとエバに救い主を与えると約束した時から、何千年もの時が経過しました。

その間神は、自分の民（救い主を与えるために神が特別に選んだ民族）を励ますために、特別な使者や*預言者をつかわしました。預言者たちは何千年もの間、救い主はどのような方で何をするのか、また神の約束はどのように実現されるのかを、くりかえし伝えてきました。神から選ばれた民族は、救い主の誕生を忍耐強く待ち望み続け、ついにその時が訪れ、全人類の救い主が生まれたのです。



救い主は、約2000年前にダビデ王の出身地であるベツレヘムというイスラエルの小さな町の馬小屋で、処女マリヤから生まれました。

天使が、この驚くようなできごとを羊飼いたちに知らせました。天使を見てひどく恐れた羊飼いに、天使は「恐れることはありません。今、私はこの民全体のためにすばらしい喜びを知らせに来たのです。きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそキリスト（全人類の罪を*あがなう救い主）です」と告げました。

神は約束を守り、救い主をつかわしました。神の子キリストは人間として生まれましたが、まことの神であり、まことの人間です。そしてまた、父なる神、聖霊なる神と共に*三位一体の唯一の神なのです。

神が天地万物を創造した時、キリストもそこにいたと聖書に書かれていますので、私たちはキリストがまことの神であるとわかるのです。父である神は「わたしの愛する子、わたしはこれを喜ぶ」と聖書の中で二度も言っています。神の子であるキリストは全能であり、罪がありません。

キリストがまことの人間であったという事は、人間の体と感情があり、食事や睡眠の必要があった事で証明されています。キリストは、イエスと名付けられました。イエスとは救い主という意味です。イエスが*良い知らせ(福音)を宣べ伝え始めたのは30歳

の時でした。この良い知らせを聞くために多くの人々がイエスのもとにやって来ました。

イエスはたびたび、たとえ話を用いて教えました。その一つに、畑で種をまく人の話があります。ある種は道ばたに落ち、鳥が来てそれを食べてしまいます。別の種は土の薄い岩地に落ちます。土が深くなかったので、すぐに芽を出しますが、日が昇ると焼けて、根がないために枯れてしまいます。また、別の種はいばらの中に落ちますが、いばらが伸びて、ふさいでしまいます。また、別の種は良い地に落ちて、豊かに実を結びます。



イエスはこのたとえ話を次のように説明しています。この種とは神の言葉です。ある人々はこの言葉を聞いても、悪魔が来て、その人にまかれた神の言葉を、鳥が食べてしまうように奪って行

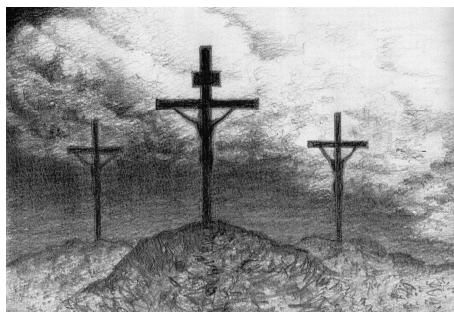
きます。この人々は信じることも救われる事ありません。また、神の言葉を聞いて、すぐに喜んで受け入れ信じる人々もいます。しかし、そのために困難や迫害が起こると、信じることをやめてしまいます。彼らは、浅い岩地にまかれた種と同じです。また、いばらの中にまかれるとは、神の言葉を聞いても、この世の思いわずらいや富の誘惑や欲望などによって、神の言葉がふさがれて実を結ばない人々のことです。しかし、良い地にまかれた種とは、神の言葉を聞いて受け入れ、30倍、60倍、100倍の実を結ぶ人たちです。イエスを救い主と信じ、信仰深い生活をし、救われる人々のことです。

イエスはまた数々の奇跡をおこないました。これはイエスが神の子で、全能の神であることを証明するためでした。イエスは、水をぶどう酒に変えたり、ガリラヤ湖の嵐を静めたり、自然に対しても権威と力がある事を示しました。またイエスは、病人、耳が遠い人、目が見えない人を治すことによって、病気に対しても力があることを示しました。さらにイエスは、死んだ人を生き返らせることによって、死に対してさえも力があることを示しました。

イエスは神によってアダムとエバに約束された救い主です。またイエスは私たちの救い主でもあります。聖書は、イエスが私たちを救うために何をしたのかを伝えています。あなたの心にまかれた種が良い実を結び、イエスを神の子として信じるができますように。そして、イエスの名によって永遠のいのちが与えられますように。

イエスの死と復活

なぜイエスは、永遠なる神のひとり子であるのに、喜んで天の栄光を離れてこの世に来たのでしょうか。なぜ富んでいたのに喜んで貧しくなり、この世に住んだのでしょうか。その答は「愛」です。父なる神はこの世を愛し、そのひとり子を私たちにおくり、人々と共に住まわせました。イエスは私たちを愛しているので、自分の苦しみと死によって、私たちの罪からくる罰を取り除いてくれたのです。



イエスは私たちのために苦しみを受けました。その時代の宗教指導者は、イエスが説く愛とゆるしのメッセージを嫌い、イエスが神の子であることを信じようとせず、殺そうとしていました。さらにイエスの弟子の1人であるユダは、銀貨30枚でイエスを裏切りました。イエスはエルサレムにあるゲッセマネの園で祈っていた時に捕らえられ、裁判を受けるために連れて行かれました。イエスは自分が神の子であると言ったので、神を冒とくした罪に問われ、ローマの総督ポンテオ・ピラトのもとに送られました。そこで、イエスはあざけられ、むちで打たれ、いばらの冠をかぶせられました。ピラトはイエスには何も罪が見当たらなかったの

で無罪にし、釈放しようとしたのですが、群衆は「十字架につけよ、十字架につけよ」と大声で叫びました。

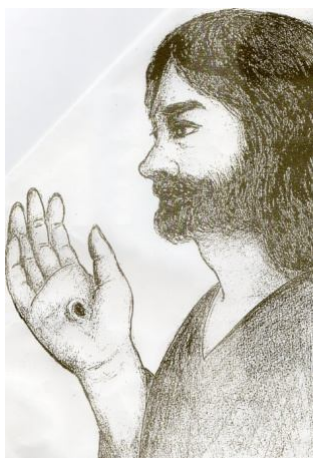
イエスは2人の犯罪人と共にゴルゴタという丘で十字架につけられました。イエスは、自分を十字架につけた人々のために「父よ、彼らの罪をおゆるしてください」と祈りました。また、イエスは隣の犯罪人の1人がイエスを信じたので「あなたは今日、わたしとともにパラダイスにいます」と彼が天国に入ることを約束しました。十字架につけられてから6時間後に、イエスは「完了した」と叫んで息をひきとり、この世に來た目的を完全に果たしました。イエスにはまったく罪がなかったのに、罪からくるすべての苦しみと死を私たちの代わりに受け、全人類の罪の代価を完全に支払ったのです。イエスが死んだ時、突然空が暗くなり、地震がおきました。その場にいたローマ兵は「確かに、この方はまことに神の子であった」と言いました。

イエスを信じ、神の国を待ち望んでいた人がイエスを埋葬し、墓の入り口を石でふさぎました。遺体が盗み出されないようにローマの総督は墓に封印をし、兵士たちに入り口を見張るように命じましたが、イエスを墓に留めておく事はできませんでした。以前、イエスは自分が3日目によみがえることを、何度も弟子たちに語っていました。そしてそのようになりました。

イエスが十字架上で死んで3日目の日曜の朝早く、数人の女性がイエスの体にぬる香油を持って、墓に向かっていました。「だれが墓の入り口から、あの大きな石を転がしてくれるのでしょうか

か」と話しながら墓に着くと、石はすでにわきに転がっていました。兵士たちもおらず、墓は空でした。そこで、彼女たちは天使の喜びにあふれるメッセージを聞きました。「あなたがたがイエスを捜していることはわかっているが、もうここにはいません。急いで行って弟子たちに伝えなさい。イエスは死人の中からよみがえりました」。

これを聞いた女性や弟子たちの心は喜びであふれました。神の子であるイエスは人となってこの世に来て、苦しみと死を受けましたが、死に打ち勝ちよみがえりました。



よみがえったイエスは、40日間多くの人々の前に現れました。ある時は、500人以上の人々の前に同時に現れたこともありました。その後、イエスは弟子たちを祝福しながら天に昇りました。イエスは天において父なる神と共に権威と栄光の地位にあり、世の終わりの日に、私たちの目に見える形でこの世に再び来るのです。

救い主イエスは、私たちの罪の身代わりとして苦しみ、死にましたが、3日目によみがえり天に昇りました。イエスは今も生きています。そして私たちの救い主です。これを受け入れることで、私たちの罪はゆるされると神は約束しています。なんと素晴らしい約束でしょうか。

聖霊のはたらき

聖書が教える神とは、父、子、聖霊なる三位一体の神です。私たちは父なる神とその偉大なる業、すなわち全世界と人間の創造について学んできました。また子なる神イエス・キリストの救いの業についても学びました。では、聖霊とはなんのでしょうか。聖霊は真の神であり、父と子と共にいます。それらは一つであり、また等しく全能であり、聖なるものです。では聖霊はどんな働きをするのでしょうか。



第一に、聖霊は私たちを神の言葉と救いの業とによって、信仰（イエスを救い主として信じること）へと招き入れます。聖霊は私たちに新しい命を与えます。かつて私たちは罪の暗闇の中に生きていました。しかし信仰を持つことにより、神の約束の光の中

に生きるようになります。

第二に、聖霊はすでに罪がゆるされて信仰を持った人に、神と共にあるという平安となぐさめ、天国での永遠の命の希望と喜びを与えます。

イエスを救い主として信じる人は、神と共に平安のうちにいます。神を恐れることはありません。神は愛にあふれ、私たちのすべての罪をゆるしてくれるからです。

私たちは日々多くの希望を抱いて生活しています。子供たち、若い人、熟年の人、それぞれに希望があるでしょう。しかし聖霊はもっとすばらしい、天国での永遠の命の希望を与えてくれます。

私たちの命は喜びに満ちています。たとえ生活の中で失望や落胆が生じたとしても、私たちは神が祈りに耳を傾けてくれることを知っているので、打ちひしがれることはありません。いつも神を信頼することができるので、私たちの心は喜びで満たされます。私たちは聖書の中にある神の慰めの言葉を聞くことができます。聖霊は、罪から離れたきよい生活を望むように私たちを導いてくれます。

神がキリストを通して私たちの罪をゆるしてくれたように、私たちも聖霊の助けにより忍耐強くなり、憤りも悪い欲望や習慣もコントロールできるように、またまわりの人々にも寛容になりその罪をゆるすことができるように訓練されるのです。

他にも聖霊によって私たちの人生に、もたらされるものがあります。悪魔と、私たちが生まれながらに持っている罪深い心は、私たちを神から引き離そうとします。聖霊こそが私たちを強め、私たちが天国での永遠の喜びに入るまで、神の意志に従う信仰を守るのです。

永遠の命

人は死んでも生き返ることができるのでしょうか。イエスを信じる信仰によって神の子とされたクリスチャンは、「はい、再び生き返ります」と確信をもって答えることができます。

「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。また、生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことはありません」とイエスは、はっきりと約束しました。しかし、私たちは本当に死ぬことがないのでしょうか。

死というのは、体と魂が分離されることなのです。体が死んでも、私たちの魂は生き続けます。イエスを救い主として信じなかった人々の魂は、地獄という終わりのない罰のある場所に引き渡されます。そこで悪魔たちと共に永遠の苦しみを受け続けるのです。しかしイエスを信じる人の魂は天国に行き、そこで神と天使たちと共に永遠に生きるのです。

この世の終わりの日、イエスはすべての人々を裁くために再び来ます。その日、すべての死んだ人々の体は死からよみがえり、

体と魂が再び結合されます。イエスを信じていた人々は、神の栄光を与えられた体と魂をもって、天国の永遠の喜びの中で生きるのです。しかしイエスを救い主として信じなかった人々の体と魂は地獄での永遠の苦しみを受けることになります。

天国がどのような所なのか、私たちには分かりません。しかし聖書では、天国とは私たちがイエスと共にいて、この世で経験するような苦痛も悲しみも死も涙もなく、永遠の喜びがある場所だと説明しています。また私たちは、イエス・キリストへの信仰を持って死んだすべての愛する人とそこで再会します。

今晚、あなたが死を迎えるとしたら、あなたはどこに行くのでしょうか。あなたの魂は天国に行くのでしょうか。それとも地獄でしょうか。



もしあなたが天国に入ることを神に認められるとしたら、その理由は何でしょうか。神は私たちに「あなたがたは、天の父が完全なように、完全でありなさい」と、完全な生活を要求していますが、私たちにはできません。神は私たちの中に何を見るでしょうか。それは罪です。「罪を犯したものは、その者が死ぬ」と神は私たちに警告しています。それにもかかわらず、多くの人々は自分が罪人であることを認めません。彼らは、“私は他の人よりはましだ。私は正しいことをしようと努めている”と自分を正当化しようとします。しかしおこないによって罪がゆるされるのではなく、イエスを信じる信仰によってのみ、罪がゆるされ、神の恵みによって救われるのです。

この素晴らしい約束を私たちに与えてくれた神は、あなたを救いたいと願っています。聖書を読んで神の言葉に耳を傾けてください。まず新約聖書のマタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの福音書に記されている、イエス・キリストについての話を読むことをおすすめします。

この冊子を読んで、聖書に興味を持たれた方は、教会を訪ねてください。イエスはあなたを永遠の命に導いてくれるでしょう。

用語解説

P6 *偶像礼拝

真の神以外のもの、例えば自然、人が作った像、人の知恵、科学やお金、死んだ先祖などを神であるかのように拝んだり、信賴したりすること。

P7 *預言者

神から与えられた知らせ、警告、約束などを伝えるために神に任命された人。

P8 *あがなう(贖う)

代価を支払って、買い戻すということ。神はその大いなる愛のゆえに、イエス・キリストの十字架の死によって、全人類を罪の罰から完全に買い戻した。

*三位一体の唯一の神

三位（さんみ）とは「父なる神、子なる神イエス、聖霊なる神」の三つの神格をさす。三つの神格は別々に存在し、活動するが、権威や栄光などが同等で、ただひとりの神。

*良い知らせ(福音)

神が罪のゆるしや天国での永遠の命などを、救い主イエス・キリストを通して全人類のために約束してくれるその内容。

この冊子を読み、聖書やキリスト教に興味をお持ちになった方、疑問や質問のある方、またさらに聖書を勉強するための教材を希望される方は、最後のページに私たちの教会の住所などを載せてありますので、ぜひ近くの教会を訪ねてください。私たちは喜んであなたと共に学びたいと願っています。

ルーテル福音キリスト教会一覧

茨城 恵（めぐみ）ルーテル福音キリスト教会

牧師 芳賀 弥男（はが みつお）

〒310-0905 水戸市石川1-4022-3

TEL/FAX : 029-251-5204

茨城 望（のぞみ）ルーテル福音キリスト教会

牧師 吉田 忠（よしだ ただし）

〒300-0823 土浦市小松3-23-27

TEL/FAX : 029-821-3578

千葉 燈（ともしび）ルーテル福音キリスト教会

牧師 吉田 忠（よしだ ただし）

〒285-0858 佐倉市ユーカリが丘1-34-5

TEL : 043-461-5890 FAX : 043-487-6490

栃木 聖光（みひかり）ルーテル福音キリスト教会

牧師 仁平 武志（にだいら たけし）

〒321-0138 宇都宮市兵庫塚3-29-6

TEL/FAX : 028-653-6353

栃木 平安（へいあん）ルーテル福音キリスト教会

牧師 仁平 武志（にだいら たけし）

〒326-0846 足利市山下町4-2411-3

TEL : 028-463-0945 FAX : 028-473-6524

東京 贖（あがない）ルーテル福音キリスト教会

牧師 仲本 大輔（なかもと だいすけ）

牧師 ブラッド ウォーデル

〒203-0052 東久留米市幸町3-2-17

TEL/FAX : 042-471-1855

幸いなのは、神のことばを聞いてそれを守る人たちです

ルカの福音書11章28節



Multi-Language Publications

Bringing the Word to the World

The Promise - Japanese

Copyright © 1998 WELS-BWM

Revised 2013

Printed in Japan

Catalog No: 38-7250